

鞍寸之卷和

乾
坤

和装本

ケ 5

44

2





鞞寸之卷

○夫鞞鑿武器之要也作其形始上古也定其寸尺而
 作其鞞鑿矣結有親王者也有于茲大坪廣秀
 者重而迴工夫鞞鑿能乘能考遂鞞鑿之德備也
 孰其材鞞鑿六十八背六十八懸也且道禪入道
 傳其曲尺與直身者是也蓋上之曲尺下之曲尺及于
 其屈伸之執所為秘事而令相傳永存因中心者也
 ○鞞鑿ニ依テ外ノ皆具ハ後ニ調タルモノナリ其鞞鑿ノ
 目利ハ曲尺ニ有ト云々又ニテ鞞寸之卷ハ六枚矣ニ有ト云

夏ニテ鞞寸之矣ト云其奏ニ題アリ置レタルヲテ其鞞
鏡ナクシテハ馬ヲ騎乘スル術無し又駿足有ト云ハトモ其
器ナキ時ハ其徳不顯武功モ難達也

○夫鞞鏡者武器之要也作其形始上古也 上古大己貴
尊ニ始ル以尊ニ五十一トテ道具五ツテ經五ツ始テエ
玉ヲ其内ノニツノ具也鞞七種ノ神宝ノ内ニ今テ有之
馬ノ背ニ駕初ノ道具ハ鞞鏡也故ニ武器ノ要ト記也
リ又漢ニ黃帝ノ時ニ制作スルニ依リテハ神代ヨリ
レテ有之故ニ上古ニ始ルト記リ作ノ由ハ後世ノコトナリ

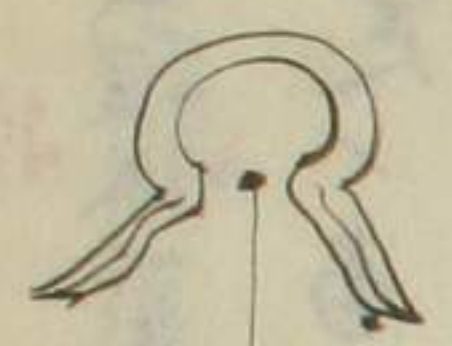


人代ニテリ聖武天皇ノ頃筑前ノ國ヨリ鹿毛ナル駿馬ニ鞞
置テ牽タルヨリ天皇其形面白キトテヨリレテ鞞鏡
ヲ制作シ玉ヲトナリ今ニ筑前ノ國ニ鞞懸郡鹿毛沼
村トテ有之由是其所リ稱美叙成テ名付玉ノ地名ノ
由又其後孝德天皇人王三十七代之天皇茅渟ノ王子
也其天皇賢文武然後分テ武具及馬具之陽器アリ
馬之道行天下也亦鞞鏡ノ由スルノモ古来ヨリ定リ
タルナレ氏唯大田人ナリテ有レ其由ハ委ク定リタルハ
能有親王ニ奉リタル莫ナリ能有ハ孝德天皇ノ白王子左近

厚ク秘事トシテ教ラシトナリ又中ニ扶曲尺前後ニ臥
 程ノ曲尺有リ借亦大坪殿ヨリ前ニ色御臺鞞ノ下
 カリシトナリ今ノ鞞ノ形女御臺ヨリ形改リシト云今ノ形
 ソ雖取ト云ナリ大坪殿其ノ形知ラレテ其上ニ自
 分ノ工夫ヲ用ラレテ被制ナリ故ニ大坪殿モ女御臺ノ
 形ソホトニテ復後ニ工夫アリシトモアリ右道禪公鹿島孫ニ
 節ト云シ者也其後廣秀ニ所泊アリテ大坪殿改メタルヨシ
 又後世手薄ニ美クナタルハ伊勢形ト云ヨシ是ハ尾御
 臺ヨリ後ノコトヨレト云傳リ

前輪ニ曲尺

前爪ノ長サ六寸八分或六寸六分也曲尺ノ當ヤウ窮口
 ノ内ノ角ヨリ爪ノ内ノ崎角ニ當ヘシ
 是ハ爪ノ曲尺ハ六寸カ曲尺ノ本也八分六分ハ本思敷キ
 モアルカユヘハ五分六分ノ余ニ度シ曲尺ニ延シタルモノナ
 リ是ソ餘ル曲尺ト云ヒ上ノ能キ曲尺ノ本ニテナタル
 ハ六寸ナリ曲尺思敷ホミテハ余ル曲尺ニナリ




如女曲尺ニナルナリ

○馬^扶杖一尺九分或七分八分或有へし今代ハ一尺五分也
曲尺ノ者ヤウ兩爪ノ内角ヨリ取レシ


△是ハ尺一才半曲尺也是モ木惣敷ケレテ木ケルカワケハ
及ル及レハヒラクエハ一尺九分ニツメタルモノ也オモヨリ
テカノ傳アルナリ 近代ハ尺一尺五分ニオナリ開キタ
ル方ハ惣敷ナリ鞞前低ニ見テモノナリ

○鞞ノ高サ一才四分或ニ才五分
△是ハ一才ノ曲尺本ナリ是モ木惣敷惣ケレハルコトアル
ユハ縁リシロニ四分五分ノ余愛有。又居木ノ切リ組ハ遠

田尺有ルユハ二乗人村ニテテ前ニテ切合セタルナリ

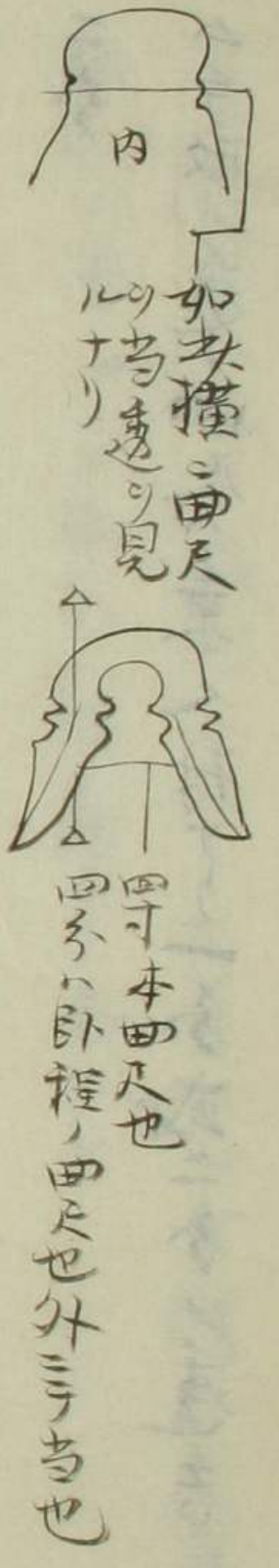
○鞞口ノ内一才五分外一才九分
△内ハヤク  外ハ廣シ

○中ノ角ヨリ爪長カ一才三分半

△是モ八寸カ半曲尺也是又木惣敷モ有ユハ三分半
ノ余愛アリ 

○手取ノ中ノ高ハ一才通ヨリ横ニ曲尺ヲ当透一才半或ハ
二分

△手取ノ透ノ曲尺ハ乗人村ナリ一才或二分ノ透也



○爪ノ爪角ヨリ横ニ由尺ツテ透一カ

○前後ノ爪間四寸四カ爪ノ内角也口傳

○伏程ノ由尺口傳 △合モノ通也

後輪之由尺

○爪長サ窮口ノ内角ヨリ爪ノ内角ニ至テハ寸五分

△本法ハ九寸或ハ寸リ三分ハ餘ル由尺ナリ

○馬杖一尺二寸四分或三分

△是ハ馬杖ハ窮口ニ廣狹ニヨリテ女ノ心得有

○爪長サ中角ヨリ一尺分

△是ハ窮口ノ中角ヨリ由尺ツテ一尺本法也三分ハ寸五分

ナリ窮口ノ内ヨリ寸ルナリ

○窮口ノ内ニ寸三分外ニ寸七分

△書面ノ通也窮口廣狹ニヨリテ右ノ通馬杖少ナキカ

フ也

○鞅ノ高サ寸五分或ニ寸六分

△是ハ高サハヒクキモ高キモ思敷也縁シロニ女ハ余慶高

モ有り

○鯨口ノ上横ニ曲尺ヲ当テ透一分半或二分

△是ハ其面ノ通りヲ透ノ曲尺ハタスケノ曲尺ニテ乗人ノ

唇敷ノ丸ハツトリニ居心ヨキヤウニシタルモノナリ

○切組ノ下角ニ横ニ曲尺ヲ当テ透四分或五分

△其面ノ通り

○爪ノ上角ノ内ヨリ横ニ曲尺ヲ当テ乗間一尺一寸一分

○傳

△乗間ハ乗人ノ肘ノ所也

○伏程ノ曲尺ノ傳

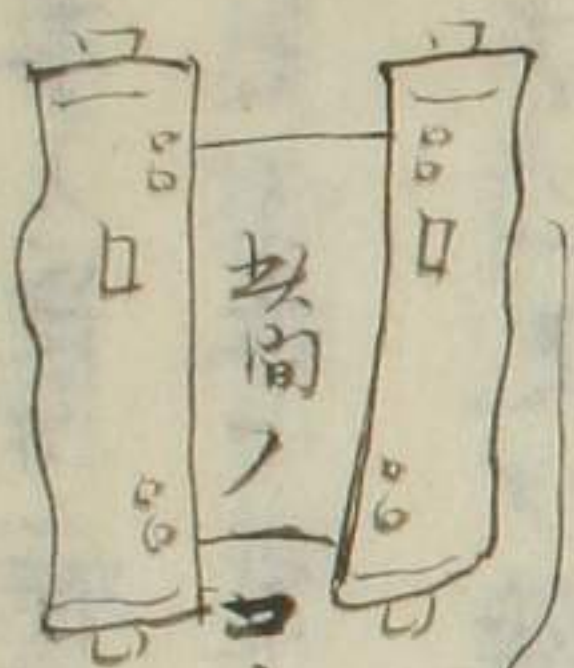
△其鉤者取口決ニ相俟ナリ

居木ニ曲尺

△上曲尺下ノ曲尺ハ常字ノ造工好玄ヨリ傳來シ

タル曲尺成ルユヘニ其時迄ハナカリシコト成ルヘシ

○居木ニ間一寸五分



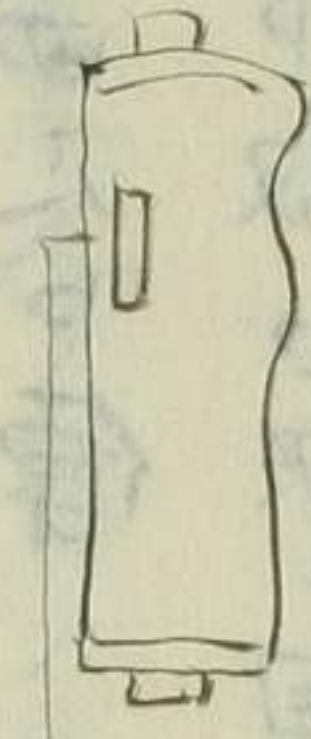
此間ノコトニ其所ニテ曲尺有ル

えハ一寸ノモノアリセハケレハ
背ニ有ルナリ

○居木ノ長サニ廣リ定ス鞍形ニヨルハシ
 △本文ニ長カ定スト云ハルハ誤ナリ大概定タル曲尺ナル
 モノナリ一尺ノ渡リナルモノナリ上ノ曲尺ナリ廣サハ定ス
 長ハ定リタルモノナリ

○居木カ草通シノ穴ノ上ノ角一分ナリ也作ノ
 キツカケナリ △是カ草通内ノ角ヲトラサレハ其所
 ヲリサケルモノハ其所ニテハ毎シトノ方ノ角ナリ則

番ニ記ス



其所ナリ

○居木ノ押付ノ幅ト山形ノ廣サ同前也口傳
 △是ハ押付ノ幅ト山形ノ廣同變成ルハ作ノ見所也
 作^云字クセニヨリテ違フ也矢鉄炮ノ夕大ニ廣クテ有

鐘之曲尺

○鐘舌崎柳葉ノ真中ホトヨリニツ及ノ四下角ハテ
 五寸三分ナリ口傳 △是ハニツ頃ヨリ真中ニ見通
 曲尺ナリ一ツ頂ハホウノヒラノニツノ角也
 ○凡柳葉ハ下ノ角ヨリ端付ノ真中ニ四寸四分也口傳
 △書ノ通柳葉ト柳葉トノ渡リノ曲尺也

○片柳葉ハヒラ直ニ見通シ香崎柳葉ノ内ヨリ寸
ハ分リキ其ノ見付也△是ハ本文ノ通ナリ



○石者從横秀令相傳道禪入道秘鈿也上由尺下
ノ由尺ハ常安入道ニ好玄ヨリ傳来スル由尺ナリ

直茅之鞞之事

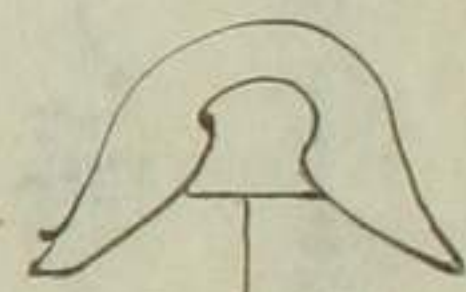
○鞞大形ニテ山形モ高ク見元也右キハ下モ有ハシ
△直茅作リ鞞ハ前輪後輪凡ニ少ク高メニテ肉置

能キユヘニ大形ニ見元モノ也古キハスレ故ニ下モ成
ル也物ヲ作リ恰好シ見度シタル所ニ位有古来ノ鞞
ニ鉞鞞トテ大形成有リ中將ノ官ノ人乗タル鞞也下
○前後輪ハホニスアマ形ノ只ニテ急心ニウホム也是
キ一ノ見元也又右ノ如クナキモアルヘシ
△是ハ居本ノ角見込ノ只一ノカウト云ヌアマ形ノ
下角切組ノ上リニカウト云也其ニカウノ所スア
マ形ノ下ウホムナリ夫ニテ背ニ当ル只肉毎クシテ馬ノ
背ニアタメラスレテ馬ノ背ニアタメラスレテヒ子リナリ

能クキク也 繪着ノ通りスホムト云フニニ世し肉ッ
能取リタルモノ也



ウホム
其同ノ四尺



其ノ如クニ肉毎クムツクリト云
ナリ

○後輪ノ折目急ニキツクリト折ナリ常ノ折目ヨリ折過
タルヤフ也

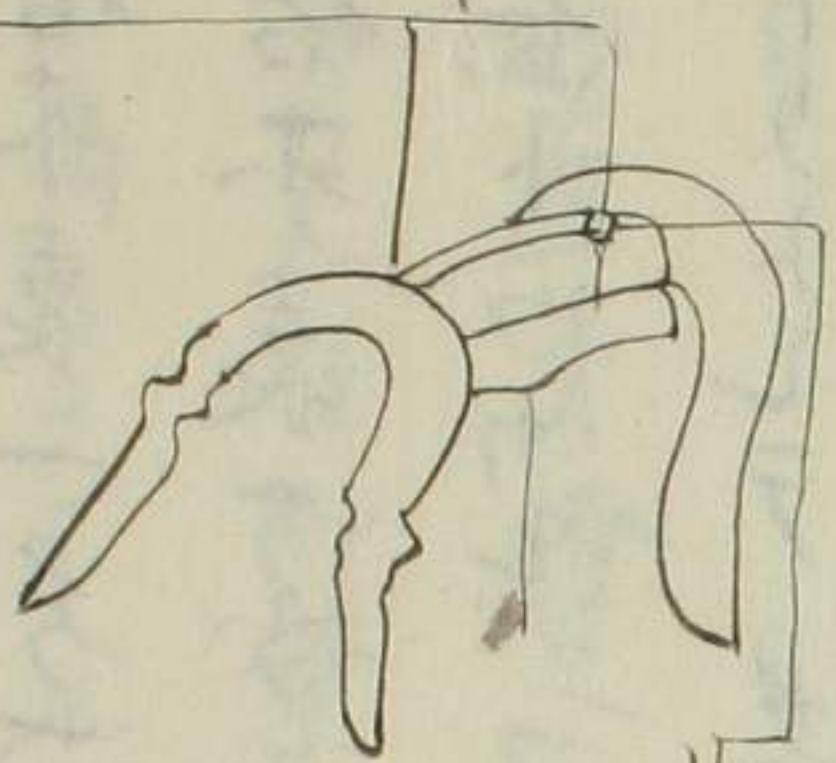
△後輪ノ折目ト云ハ爪ノ下也キツクリト折ル故ニ臥
程ノ申尺法クシテ鞆ノ上手也

△ヌシハリタル鞆ツ



此所折目ノ長ハ

居置見ルニ作ハ何レカ爪一トウウクモノ也前輪ト
後輪ト二面尺当ルニ後輪ヒクキモノナリ



其星ノ所

前後共ニ居木ノ押付ニ鈿ツ当高サヲ見ルナリ

○鞆深ク厚ク見ユル也海モ常ヨリ深シ前後同前也
△鞆深ク厚ク見ユト云ハ前輪ノ内輪ノキワニテ透

キノ田尺ニテ肉ヲ落スヘシ鞞深ケレハ乗人モ乗コ
キモノナリ下チノオタル鞞ハ居木ノ前ニ肉ヲ置テ
後シ落ス故ニ乗心惡敷也居木ニテモ落スナリ
○居木表一カハ口キナリ又曲尺当テ直ナルモノナリ
△居木表一カ丸キトハカ草通レハ角ノ下
ニ面トラカレハ居木サケル故ニ面トルナリ丸キト云ハ
シトトリトシテ是モ透ノ田尺心

○居木ノ裏録目アリ是直ノ鞞ニテ見ヤウノキ
ツカケナリ條ノ傳

△録目後エサクリテ有リ居木ノ判有ハ一カホト
透有リ是判ツスラセニキ為村ヲ取ルト云ハ
コナリ

直ノ鞞ノ事

○鞞カタヘ付柳葉ハ一寸ハカリ次章ニホウキナリ肩ト
下トノ角スコシ尖ルナリ

△是ハ鞞ノ曲尺中ノ踏付ニテ取ルナリ肩ニ角有リ又四半ノ
角ニ角有リ下チノ鞞ハ四半ノ角丸キモノナリスヘテ作ハ
直成板ニ居テ見ルニトカクハエカレクモノ也鞞ノ板ノ内

工重ミシ入レタルモノナリ夫故ニカレクナリカレク故ニフミヨシ
是ツカナトリノ見様口傳ト云ナリカナトリトテ廣秀ノ
秘事ノ由尺ト云リ

○鏡ハ兩作也カナトリノ見ヤウ口傳 △兩作ト云ハ秀ノ
手前ニテ重リシヒソカニ入レテタル是以兩作ト云也又加
賀掛ハ五六シ形ニレタルモノナリ近代ノ作ナリト云

直彖心持秘傳

○由岐中フクフニ角ノ出タルヤウニ見常ノ居木ヨリフルナリ
△常ノ居木ハヤセテ見ユルモノナリ直彖ハ公ツクリトシテ

惣作ニ肉有ル様ニ見ユルモノ也乘間タツフリトシテ内置見
夏ナリ居木肉有ル居木シワル間敷タメナリ乗テ鞆心
ヲキモノ也

○切駒ニ印鏡アリ燭ノ先ツ只依ヒテアリテリ假合
一 一ニ兩端ハ浅シ板ノ後先四匹ニアリ口傳

△是ハシツケノ穴ノフナリ此穴乗敷表ノ方クリヤウ浅ケ
レ切ニ付ノ緒結ヒメ高クナリテ鞆ノ上乗心惡モノナリ右
燒印凹ニスコシ廣ク如狀 一 一見エサル様ニ如狀心得ニ有
○輪シテ取テ目ノ通ニ指出シ見ルニ切組ノ所ノ厚サト一

ツ物ニ厚ク見ル其外ノ鞆ハ其所薄キ物也

△是ハ輪ヲ手ニ取テ見ルニ見込タル所ノ居木ノ厚サト

居木先ノ因ト同分ナルモノナリ

○折目ハ常ヨリ深シ

△折目ト云ハ後ノ爪サキノ折タル所ヲ云ナリ撚リ當リシキ

カセタルモノナリ

同鏡之皮

○猿尾狹ク見ルナリ

△猿尾狹クシヤクモセハキモノナリ

○舌崎狹キヤウニ見ルナリ

△舌崎ハトコトモ毎ク狹ク

細キモノナリ却却ト云金鏡ニテモセハク肉ナテ有ルナリ

○脊上ノ肉脇肩ノヤウニトハルナリ △ツツリ紋板ノ取

付ノ処ヲ云ナリ

○正ニ高クト云ルナリ △正ニ高キハ向ツツヨクスル心也西

平々々コケタルモノナリ

○踏込廣キ心ニ見ル也

△書ノ通者込ノコトナリ

○鏡大形ニ見ルナリ

△古来ノ鏡ハ皆大形ナルモノナリ

鼻山中務

○直茅ノ鞆ノ心ニ替ルナリ

○唐木裏ニ見取アリ口傳

△是ハ唐木裏チヤウナ目有サクリ有テフタイウ成モノ也曲尺ハ直茅ニ替コト毎レスハトレタルハ皆裏ワキニ鞞心悪シキモノナリ

○鏡ノ形直茅ノ姿ニ替ルヲナシ然トモ古ノ武藏鏡ノ形ヲ

移サレタナリ △直茅ニ替ルヲ毎レヒトウ金イヒツ

ミシニノツツトリ長クム子出タリ踏付ノ反ニ口傳有

私云武藏鏡ノ形ヲ移サレトアレハ舌先長メニシテ少及

クアルヘレハ其ノ金銀ニテチヤウナ目有テハ其ノ形ナリ

伊勢七郎負長 勘解由左エ門尉因幡守入道照心

○直茅鞞ノ心持テ少小形也折目直成ヤウナリ鞞少

ウツクレク見ユルナリ爪ナトノ肉置ハ直茅同前也

△内ノ鈿ニチカイ毎レ外シク宛小形ニ見ユル様ニ外

ノ肉ツシトシタルモノ也折目直成ルヤウニ見ユルナリ

強ク折レタルハ直茅ナリ肉置道禪ニ替ルコトナリ

前鞞

○爪長サ六寸六分爪崎メシト也

△外ノ鈿同前也切組角ヨリ六寸六分ナリヌレシメテ爪

サキニ分面ヲ取ル
 ○馬狹メニノ外ハ一尺七寸メニノ内ハ一尺五分 △書ノ下
 ○手形ノ高ミノ透分半ヨリ内也 △書ノ如シ
 ○爪横曲尺分半ヨリ内也 △書ノ如シ一寸ノ内ノ分ナルカ
 ○前後爪内四寸五分半但一方ハ四寸四分ニ作也口傳
 △右ハ四寸四分左ハ四寸五分半ニ手丸モノニ居置爪ニツウ
 クハ鉄鉤有ユハナリ
 ○手形イカニモ四クユツタリト見セリ △是ハ常鞞ハ手形
 ニ角有毎トコトモ毎丸キカヨキナリ

後輪

○爪長サハ寸三分メノ内ハ四分メニ一分
 ○切組透四分 △書通
 ○爪横曲尺透寸 △下鞞ニ當ル所ナリ
 ○伏程ノ曲尺口傳 △常取口決ニ傳
 ○切目ノ穴直矛ヨリ細シ
 ○伊勢七高左衛門「負直」加賀半因幡半
 ○負長ノ鞞ニ似テ去ナカラ「負直」持ハ鞞百子クハ
 深シク大形ナルナリ

△負直作負長ノ形ニ似テ海深キウクワトサタルナリ
依テ海深ク見ユルナリ 鞆厚キユエ海ノクワリ深キナリ
又大海ト云ハワニセキナキモノナリ

○伊勢七郎次郎 貞仲 左京亮 因幡守入道

○貞仲ハ鞆ウレ深ク折目ナリ折目ハ折過タル心アリ貞
直カ鞆ヨリウレ薄キ也判形ナレ

△是モ田尺ニチカイテ少深キハ山形少高く見ユルナリ居
木ノクワリモ深シ又肉合薄メニ折タル判形ハスエサルヨ

伊勢七郎次郎 貞誠 左京亮 因幡守

○鞆ニ判形アリ年月日月日ニテ記ス也餘作ハ何月日ト書
也 △是ハ年月日月日追記スナリ 鞆ウスク前後切組ト
モ判有リ外ハ月日計有

○鞆薄ク折目ウツクシクタツヤカ也前後ノ輪切組ニモ判
アリ切組ノ様子先代ニ替ルナレ △書ノ通り

○居木ノクワラノ方ニ角ナレ △別ニ替ナレ

伊勢左京亮 貞恭 因幡守

○貞誠ノ鞆ヨリウレ少大形成心アリ判形アリ居木
崎ニ角有ヤウニ見ルナリ △居木崎ニ角有様子見ルナリ

鈿ハ同コトナリ大形或心ト云ハ外ニ肉カ、リテ有ルユヘニ大形
ニ見ユルナリ

伊勢左京亮貞倍 因幡守

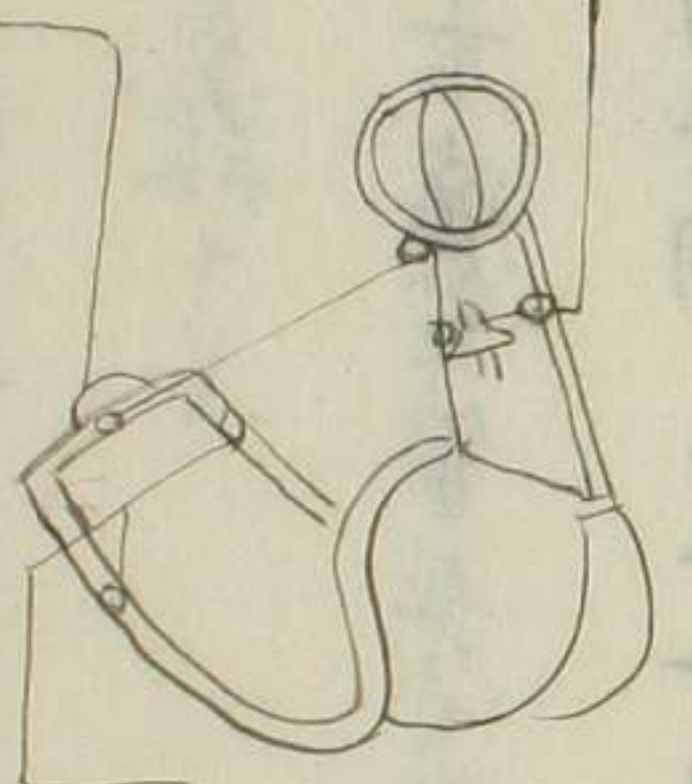
○貞泰ニ似リ伏過タル心アリ爪ノ肉置居木崎ニ肉アリ判
形アル也 △是ハ卧過タル心有鈿ハ同夏ナリ後爪シ前
正心持ケコトセタルモノ也ツイツキ深メニ切組タルナリ
伊勢因幡并貞常 法名常安
鞆ノ子懸父貞泰ハニ替ルナレ其細工猶ウツクシク見
ル也 △父ニ替ルナレ九代目ニテ上手ナリ好玄ノ傳

シ得タルヨシ

鐘之事

伊勢貞長

此金ノ百子サシ云紋所ヨリテ前ハ百子キモ有中ヨリエトモ有上ヨリ中トモ有



柳葉共所フナリ高サウ云

此金ノ柳葉ト云

○屈五寸七分
△手凡ニヨリテ五分六分七分ノ多カイ有リ
○紋只石子二分或三分

○柳葉厚子二分或二分半

○柳葉廣七分

○舌崎ヨリハ一寸二分又ハ三寸五分

○肩形別ニアリ

○一文字ノ只下廣カルナリ

△四半ノ下角上角ノユトナリ下角上ヨリ廣カルモノ是見所

○エノ形角ナクシテ凹シ但上ノ方内ハ細ク凹シ

△是又埃手風ナリ

伊勢貞直

書ノ通

○屈五寸六分

○紋厚子二分或三分

○柳葉厚子二分或三分

○柳葉廣七分半

○舌先廣一寸二分或三寸五分半ノ廣也

△柳葉ノ内ヨリ指ナリ

○肩形別ニアリ

○一文字ノ只下廣キ也

○エノ形角ナクシテ凹シ但上ノ方内ハ細ク凹シ名ハアルナリ

○高双ノ形別ニアリ △蜻双凡云シ手風ニテ丸キモ有又イヒツ
形モ有ルナリトカク手風ニヨリテ形替ルコト有シ

伊勢貞仲

書ノ如シ

○屈五寸五分半

○紋所三分

○柳葉厚子二分半

○同柳葉廣七分

○舌崎ヨリ三分五分半

○エノノ形角シテ脇へヒロカル心アリ

△是又手風ナリ然凡アヘリ宜カラス

伊勢貞誠

書ノ如

○屈五寸五分

△是五寸五分定凡ナリ五分ノ時ニ及

相能ツヘリテ強

○紋所厚子三分

○柳葉厚子二分

○同柳葉廣七分半

○舌崎ヨリ三分五分

○有ノ形別ニアリ

○一文字下廣キ也

○エノ形角ナクシテ上ノ方細ク四ニ 書ノ如シ

伊勢負卷

○屈五寸八分

○紋所二分

○柳葉厚二分半

○同柳葉廣サ七分半

○舌崎ヨリ三寸五分

○肩ノ形別ニアリ

○一文字下廣キ心アリ

○エノ形角ナクシテ四シ上ノ方

○肉細ク下ハ四シ 書ノ通

伊勢負倍

○屈五寸五分半

△是ハ負仲ノ曲尺シ

○紋所二分

○柳葉二分少シツヨシ

○同柳葉廣七分

△負仲ソ用シ

○舌崎ヨリ三寸五分半

○肩ノ形別ニアリ

○一文字下廣キ也

○エノ形上ノ方細ク回シ 書ノ通

伊勢貞常

○屈五寸六分

△是ハ半リ倍シタル

○紋只二分半

○柳葉二分或二分半

○同柳葉廣七分

○舌崎ヨリ三寸五分

○肩ノ形別ニアリ

○エノ上ノ方細ク回ク下ノ太ク回キ心アリ 書ノ如

△向レモ回シテ見合ヘシ

鞆目付只之事

○折目 夕瓜ノ折目能ク折テ後輪ヒクキ心ニ見ユルカヨシ

又後瓜前エケコム心ニ見ユルモノナリ

○居木崎 △是ハ居木サキトコ尻ナクウツクレクシテ形ヨ

ク見ユルモノヨシ

○瓜ノ肉 △後瓜サキ内ノ方ニ肉有リテ前瓜ノ外ノ角ト

鈿シ当テ曲尺合モノナリ

○爪間 △前後ノ爪間鈿シ当テ見ニ四寸四分有シモ

ノナリ

○磯ノ形 △海有ハ海ノ所キツクリト深クリタルモノナ

リ大海ハリニトコトモナク角魚ノ山形厚キモノ也高キ

ト云ニハアラス

○鯨口 △鯨口ハ廣クシテ馬ノ背ノ息ヲ抜クメナリ

鯨口廣ケト居本ノ前ニ及リ有リテ鞆ノ乗心ヨキモノ

○子取 △子取ハ角魚ク丸クシテ指ニテ緩々ト入程成

ルモノナリ

○生付 △生付ハ居本崎ノ下也生付ハ深ク切り組

テ有緒ツカヒス鞆シハリテウカス又生付深ク切組

ハ年ヘテ鞆シコ子サルモノ也

○鏡目付買之事

○一文字 △右先ノ下前ニ解リ

○屈 △是又前ニ解リ

○紋所 △是又同断

○カコノ形 口及△右代ハズルナリ直糸ノ形ナリ

○高双ノ秋
△延タルハ悪敷ナリ

○舌崎
△前ニ解

○エノ止リ夕キニル
△夕キエテトコ尺ナク角無シ

名所回ニ出タリ

直身鞍歌

前ノ爪長サハ八馬ハサシ一尺七分又ハ八分ソ

前後ノ爪ノ間ハ四寸四分手取ノ通り透一分半

△ニ説尺前ニ解

上角ノ爪ノ横曲尺透一分伏程ハ唯九寸成ヘレ

△伏程ノ軸ハ前爪ノ内角ニスク成ルモノヲ立テ上ニ軸ヲ當

テ九寸有ルナリ一尺ノ内九寸後エシサルナリ

後輪ナル爪ノ長サハ八五ニテ馬ハサシコソ一二四五分ソ

切廻ノ下角ノ透横サニ曲尺ヲ度シテ四寸カ四分半

兼間ハ一二三寸ニ分 爪ノ上角透ハ二分ナリ

同鑑ノ歌

柳葉ノ廣サハ七分半トキリカニノ寸ハ五寸八分ソ

致所子サハ二分ニ柳葉ハ二分半トコリ兼テ知ルヘシ

舌崎ノ夕テ曲尺ハ唯一ニテ切横曲尺ハ三五成ヘレ

一文字下廣ナルツボトスルエミノ形ニテ角ナカルヘシ

カコ曲尺ノ渡リハ三寸九分ニメリコウニワヌ取ラヨリスケ

△リコウト云ハ及過タルヲ云ナリ余金ノ角ヨリ鉤シタルモ有

紋所廣サハ一寸七分ニテ紋ハ其作スキニヨルヘシ

△紋ハスキニヨル成リトハ唐笠立モ有松竹ヤフレカウミトホ

ワモ有高及三角ナルハヨノツ子ソ 能ハ角ナクシノワカラナリ



如キ三角ハ惡敷ニ金ニ痛有



如キニツノツカラノ取ヨシ

作ハ唯目釘ノ金シノ重クウツ火ニアフトテモ乗レコソスレ

△目釘ハ一寸程ウツキテ作ハサレニ寸ヨリ同アルト下作也

作之鞆錠鈿当取之図

右本書四ニテ傳助合スヘシ其当取前ニモ解

○居木崎トハ居木ノサキツ云シ

○生付トハ切クワセタル切組ノ処ヲ云ナリ

○錠ノコトニ則ニ合テ鈿ヲ見ルヘシ内ノ木シハ握木ニテスル

○錠ノ余金ノサスカハ外ヨリ横ニ入ルナリ一余金スイフシキタエ

金ヲ用ルナリ

○燕左右ニ有以ノ上へ及リタルモ有下公キタルモ有

○上ノ通ニ有ル四ハ鞞ノ切合ニ有判ニテモナク目印シナリ

○十文字ヨリ鞞ノシルシ也

○又厚一ツ有モ有ニツ三ツ有モアリ

○唐金止モ一ツニツ三ツ有モアリナリ又下巻ニ細ニ有

○作者五六ニノシル者也其才ノ曲リ強ク金煉薄金

シ用釘目シ重ク折大也金ハ木シ中ニシテ挿シテ釘シ

テ事也木ハ六分ニシテ金五分ニ折合スルヲ五六トハ名付

者也

乾之終

作判形之字坤之卷也



大坪入道々禪後号直茅也無判形多を判

在時ハ燒判也金筆シ印ニ付ルナリ

△大坪道禪入道ハ盛年ノ時ハ鹿島條三郎ト云入道シテ道

禪ト云直茅ト号スルハ是ナリ鹿島ヨリ出タル人也大坪ヨリ

鞞ノ由尺シ傳シ得タル故ニ大坪性シ名ノリタルヨシ大坪ト人ヨリ

呼タリシ也云秀ヨリ譲リタルニ不狀ト云説モアリ其人ノ作ニ無判

ノ形多キナリ判在時ハ燒判ナリ手前ノ折タル鞞ハ判ニハシヨ

フ同敷ト云テ判毎キナリ又年ノ印ハ鑑ニ付タルナリ末ヒロカ
ルト云心ニテ付タルヨシ



富山中務

丁是ソ印トスル也

△富山中務ハ官領也シ廣秀ト道禪トノ傳シ得タルナリ丁ノ字
シ印トスルナリ居末ノ向ニ在リ



伊勢因幡入道照心盛年ハ七郎隆盛ニ初解

由左エ門ト云ハ無判取多シ判在時ハ燒判也ハ

浮ッ付後ニラト書斗也

△印ニハ浮ッ付タルナリ盛歳ノ時七郎四ノ後ニ至テ即解
由左エ門ト号ス後ツト書斗トハ年号月日計コトナリ室町家
ノ直勤ナリシヨシ



伊勢加賀守後ニ因幡守ト号ス盛年ノ時ハ七郎

左エ門ノ直道ト云ハ無判取多シ判アル時ハ三判ノ由アリ

印ニハ燕ッ付ルナリ年号アルハ朱ニテ永亨ノ本記シ



負直判



同判

△伊勢加賀守是人又上テナリト云毎判取多又判取在時ハ左ニ有之判多シ又加賀守ニ成リテハ始ニ有判シ居ラレシトナリ後ニツノ判ハ若キ時ノ判ナリ始ノ判居リタル鞆ハ別テ宜キヨシ印ハ加蓋シ付ルコトニ此モ有下へ飛タルモ在リ

兩

伊勢加賀高末印ニ千鳥シ付ル也

△伊勢加賀 鐘ニ千鳥シ付ルナリ

兩

伊勢因幡守貞仲入道盛年ハ七郎次郎隆盛ニ至テ左京亮ト云ヘ毎判取多シ判在時ハ加蓋又年号ハ

△貞 朱シ以テ文字ト記スナリ

△伊勢七郎次郎後左京亮ト云因幡守ト云シ時ノ判ハ少々タカイモ有由月付日付ハ其人ノコノコニモヨルナリ

兩

伊勢因幡守貞誠或七郎次郎又ハ左京亮年号ス印ハ輕子シ付ル年号ハ朱ニテ書文明何年ト記スナリ

△伊勢因幡守貞誠ハ好玄ノ時ニ当ルト云ヘ

兩

貞誠代判也

兩

伊勢因幡守貞泰或左京亮年号ス年号ハ兩應ト記スナリ

兩

同人

兩

同人

△負泰ハ上ニ左ル判形正判也所々ヨリ望人多キユヘニ多ク子ノチ
 タル鞆ニ出来ノヨキヲ見立テ判形仕タルニハ左ニ在ニ三ツノ判シ
 居ハタルナリ三ツノ判ニハ年号毎キヨシ正判居ハタルニハ年号在
 ルヨシ

判 鞆

伊勢因幡守負信或左京亮凡号久年号ハ天
 文何年ト記スナリ

△負倍年号ハ墨書也

判

伊勢因幡守負常法名常守ト号ス年号ハ天

正ト記スナリ

△負常ハ何ヨリモ上チナルヨシ年号ハ墨ニテ天正ト記セリ

判 鞆

伊勢駿河守負雅法名照心ト号ス年号寛正ト記

スナリ甲乙付月日ニテコレアルナリ

駿河守ハ如次判形居タルモアルナリ也左ニ處以写

花ニハ葉三ツ又二本

判 鞆

△負雅鞆数シ多ク折レタル人ナリ故ニ世ニ多ク見ニ在ニ判世ニ

多シ是迄九代目ノ作ト云ナリ
 ○右十一代シ上作トスル者也伊勢カ九代ト云者直茅貞
 長貞直貞仲貞誠貞泰貞倍貞常貞雅シ指
 而作之九代ト号スル者也

西 菊

伊勢因幡守貞重或傳左工門トモ号ス法名仙有ト
 云一守号元和ト記スナリ
 伊勢左京貞指印ニ丸ヲ付ル也貞泰カ養子ナリ
 △坊細書ノ通ナリ△燒印ハ生付ニハ毎キモノナリ
 居木ノ内透タキクテト云処ニ有

将 利 島 明

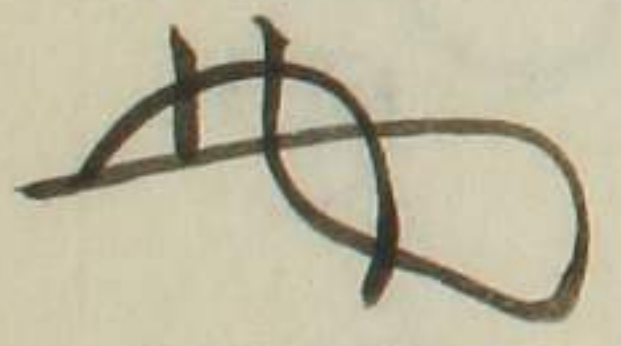
伊勢上野女貞以守号朱ニテ明心ト記ス印ニ一
 本セ歎手ナリ
 如珠モ判取居タルナリ

伊勢左工門尉初者ト号ス

伊勢守貞宗或^金仙寺
 △安金仙寺ト云ハ所ノ名ナリト云



右同判如珠
 モ居ル也



右同判如珠居
 タルモアリ

判

伊勢守貞孝 正判

同

同

同人

判

伊勢守貞忠

判

貞忠カ羽田ヲニ判シ居ル

時女判シ用タルナリ

羽田ハ男子ニテモ上ナク

判

是ハ備後ノ田宮備中作ノ判也永正五年九列ヨリ
正ノ院敷佛上落御供ニテ未貞美カ男子ニナリ
タルナリ 其田官外ノヤフニシテ伊勢カ手筋ナル也
伊勢次郎入道宗俊年号ハ明徳ト記ス

判

如女モ居ル判形アリ

判

伊勢貞陸前ノ判也

判

判

貞信カ後ノ判形也

伊勢六郎左工門貞順

轉

六郎左工門事也

同左工門尉貞順

轉

伊勢五郎後左工門尉貞則ト号ス

轉

貞倍ノ子也又弟子凡云

伊勢左京亮貞持

轉 同人

轉 同人

是ハ前段ノ田舎籠子行ノ世ノ末ニ年々シク

轉

貞泰弟子 末五京

千秋駿河守命三丸ノ内三

△丸ヲ添シモ有鏡印モ有切組ノ内ニ有又居亦ノ内ニ有之ヲ

如共モ居タル也

轉

貞誠カ弟子

南藤内藏人

貞誠弟子

宮備中年 居末ニ判取ト一ツ次傳シ付ルナリ

轉

伊勢五郎貞信

貞信

貞信弟子

大和五郎 後宗雲卜号ス

宗雲

宗雲入道ノ時如共居也

如共

貞倍弟子

猶葉左京

猶葉

貞誠弟子

沼田上野从光延印二丸ノ内一

△伊勢七郎次郎貞誠後左京亮因幡守ト云ナリ

貞誠

如共

如共モ居ル也

光延子

沼田上野从光兼印二丸ノ内二山

光延

如共

如共モ居ル也

沼田

沼田勘解由左工門元清

沼田

法名道廣
如安毛居ルナリ

馬

貞重ノ子子智也

竹内庄兵衛正重

右三十三作正林スル鞆鎧也於外ニ兩作ニ判形知カル鞆鎧アリ

貞重子次男

山内半左工門判知ス

貞重子

安田勘兵衛判知ス

○上作之外宜シキ作之事

伊勢左京亮

子秋駿河守

播葉左京亮

大和五郎

父
沼田上野次

子
沼田上野次

沼田勘解由左門

宮備中守

伊勢上野 父

同上野 子

○右者上作三毛准へキ上寺也其外松原美作守井園伊勢
駿河守カノ子ニ倉内野村ト云者有強ク子ノ能ナルレ
 山羽田 倉内野村太河ナト云モ可然キ也井園ハ伊勢
伊勢民野目判形云ニモ記リ
 駿河守カノ子也倉内野村太河共三人者駿河守カ致シ似
 スル也其内ニ倉内ハ上也太河ハ公方ノ御同朋也倉内カキタ
 ル鞆ニ蜻蛉或松是アル多シ羽田ハ細ニキ也然レ判形ア
 ル鞆ハ然ヘキ也羽田四兵衛光久カキタル中ニテ出来宜シ
 キ鞆シハ貞宗カ取テ村シ [REDACTED] 為レテ判形シ居タルナリ物
 而貞宗在判ノ鞆ハ大概井園野村カキタル多シ

伊勢民野目判形

鞆数之事

- 直弔之鞆数知ナル也
- 貞長之鞆数知ナル也
- 貞直之鞆或百十背也永吉ヨリ
- 貞仲之鞆或百二背也久安ヨリキタル也
- 貞誠之鞆百七十六背也文明ヨリキタル也
- 貞泰之鞆百五拾三背也明徳比ヨリキ初タル也
- 貞倍之鞆百拾三背也天文之ヨリキタル也
- 貞雅之鞆百八拾五背也寛正ノ比ヨリキタル也

○自常之鞞七十二背也天正ヨリチカ名也
○負重之鞞卅背也元和ヨリチカ名也

乘人村之事

○廣秀之村ノ鞞三十六背也

○永幸之村ノ鞞五拾三背也

○国忠之村ノ鞞二十五背也

○如去之村ノ鞞三拾三背也

○乘人村ノ上ノ曲尺下ノ曲尺ヲ第一トシテ四鞞爪居木ノ反曲シ

察シテ村ヲ為スナリ口傳

小鞞寸法

小鞞ト云ハ物体大キシ鉤ツチ、メ
タルモノナリ大キニ替ルナラキ

前輪曲尺

○爪長六寸三分。馬梓九寸六分。○前後ノ爪間罅。○手形ノ通り透

一分。○爪ノ上角ノ透一分内。○伏徑六分

後輪曲尺

○爪長七寸八分。○乘間一尺一分。○馬梓一尺二寸一分。○切組ノ下角横

曲尺ノ透二分。○爪ノ上角ノ透一分

作之鞞鑿目利切紙

大鞞 小鞞之事

大鑿

小鑿之事

免曲尺之事

△大小鞆鍔用ニ人々均シニテ少人ナリ鞆鍔ニキタルコトモ有小
アリナレトテ作ニテナキトハ云難シ免由入ト云ハ小アリニテモ作ハ作ト云
フ也貴人高人ノ望仍テハキタルモノナリ

鞆鍔代積之

鞆上作 金拾枚 鞆中作 金八枚 鞆下 金三枚

鍔上 金拾一枚 鍔中 金九枚 鍔下 金四枚

右者東山殿御代之積也

鞆上 金九枚 鞆中 金七枚 鞆下 金二枚

鍔上 金九枚 鍔中 金六枚 鍔下 金三枚

右者光源院殿御代之積也

△上作ト十三代ノ内常安入道迄九代ヲ云也中作ト云ハ四代ヲ
云ナリ其外ノ一ノ代付書面ノ通也 鍔ハ今ヲ打テモ代ハ鞆ノ一
倍成ルモノト云ハ鍛銀ノ上チニ金ヲ能キタヌサセテ其後チ
ハ鍛治ノ上チニ金ヲ能キタヒサセテ其後チ前ノ取リテオシハ
其方ニテ打テナリ常安入道ト云ハ東山殿ヨリ其方ノ上作
由又上チノ作ト云ハ九代ノ内也上作ニテモ家筋ト家ニテ毎キト
有諸々ノ極所出未タルハ東山殿ヨリ初ル由 △貞泰 貞誠
ハ九代ノ内也 △朝倉新トハ外ノヤウニ云トモ沼田上野久之延

ヨリ分レタリ貞誠ハニ代目ノ上手ノ申
△又井園ト云ハ伊勢駿河守カ弟子ナル由

前輪目付

○山形ノ形イカニモ能見餘リニ有ノ張タレヤウニモナク又スホミテ
モ見ヘス其向能程ニ見ユルカ吉 △山形イカリタル見苦イヤ

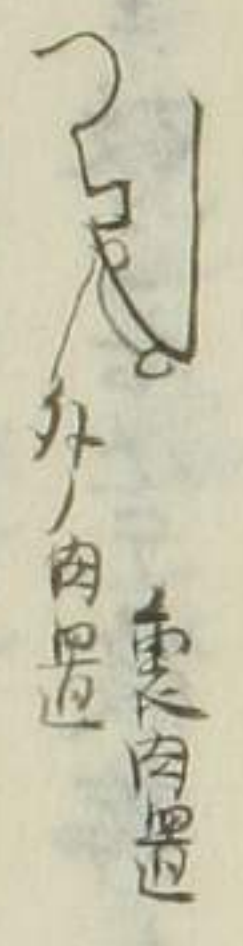
レク見ユルナリ

○海ナレ靴ハ鯨口ノ上角ヨリ山形迄ノ肉置シノレナリニコレ少肉有
ヤフニ見ユル宜シキ也其肉置カ雄子殿ハ次方ニ通リテアル吉
トスル也



○雄子殿ノ内方外ノ肉シハ少シ後ニ取タルヲ言トスル也又裏肉置ア

リ口傳△是ハ



東肉置
外ノ肉置

○手形ノ形イカニモ長シク因ク見ユルヤフニ取タル吉



○唇木崎ハ常ノヨリ少シ長ク角イカラス因キシトスル也其通

○鯨口ノ形尋常ヨリ大キシテ羨シキヲ言トスル也

△鯨口ノ曲又ハ同フニテモ廣ク見ルツ言トスル也

○瓜崎瓜形見ヤフ高キ也 △瓜先ノ高キト云ハ足ノ瓜ウエルコト

是ハ捲リ當リノキクタメニスルナリ手ナル板ニ仕懸鞆居テ見
ルニハ一ツ上ルモノナリ

後輪目付

○前輪ノ見ヤフニ天概同事也雄子鉸ノ折目取高キ也此取ニテ
鞆ノ姿宜シク見ユ者也

△折目ノ取高キ故ニ居込テ後輪ノ臥曲尺モ宜ク鞆ノ姿見ユ
ナリ宜シクハ鞆ヲ居シ第一曲リモ吉シ曲悪クシテハ居込ト難

成

○居木ノ甲ハ直ナルヤフニ見ユ也然レスツキリト取タル吉

△居木ノ甲ト云ハ上ノ丸ノ下トスツキリト云ハ居木ノ前股ノ当ル

取下ノ方エツヘニ取タルモノナリ 居木ノ裏カ草通レノ判取ノ

透下廣トリワケ前ノ方ヲ第一ニ取後ノ方ハ一多計



○生付ハ心ヲ付テ見ルニ輪ニ取ツキタル取女レ高キ心アリ



△生付上エ高ク切廻シカトキマルヤフニハリタル糸切シテモ鞆ウツ
カヌモノト作ノ見所

○同裏ノ肉置少シ宛透アリ

△裏ノ肉置ハ透多クシテ上テノサタル鞆ニハアタリサワリ尺山ニ有

モノナリ裏ハスウヘリト取ルモノニテハナシ

○判ツ居ル必ス女レ産キ心アリ

△判ツスラス同敷タメヌカ皮自由ノタメシ

○海有ノ鞆磯ノ上角ヨリスワキリト取タル吉 △中海ハ中程ヨリ

上へクル大海ハ下女レ置テクル也ナラカニ取タルモアリ、手取ニテ

一様ニ難云モノナリ

○磯ノ形イカニモ長シク施肩有ルハ又鞆ニヨリテ女レ肩ノ辰夕

ルヤフナルモ有ヘシ

△磯ノ形イカニモ長シク施肩有ト云ハ磯ノ角ノコトナリハ



梅肩ト云ハ女レノナリ

鑑目付

○鞘形ノ餘リ四クモナク又ヒラスキモセヌ女レハヒラキ心ニナリサキ

カ吉但し鑑ニヨリ回モアルハ △古代武藏鑑ノ形ハイヒツナ

リ丸キハカ草ヲ押テ悪敷ナリ今テ丸キモ有之トモ先ハ丸キハスツナ

キモノナリ鞘ハ平メナルカヨシトナリ

○鑑ハ尋常ヨリアツク産シ直ニモナク産シモセヌ

△書ノ通り帽頂ハ外ノ上ツ云ハ鑑コトハ内ノナリ

○肩張りモセス火シスホタルヤフミシテ次第ニ肩ヨリ舌崎ト
テ見ユル言傳エシノ形肝要ナリ
△古キニハハリタル毎レに傳
ハ其只ノフナリ 肩ハレト足アタリテ痛ムモノナリ当代ノ鑿大方
有ハリタルカ多ク又エシハ古代ハ向ニ張出スナリ水ツ後ス時ニヨク
水ツ割テ利アリ今ハ又シナリトナテ形多クハ其難ク
○香也ト舌崎トアヒリナカイナキハ言然ル舌崎ノ方也ヲ扶キ者
也 △昔者ノ如シ

鞆大形之目付

○前後ノ爪崎ヒラヨリ見ルニ紋切ニ見ユル

△紋切ト云ハラニ切ニ取ル也曲惡ケレト爪崎カケルモノ故ニ本ノ
惡シキニ毎レ同シ作ニテモウレ切ハ代付モ宜キヨシ極上ノ曲故
ニ紋切ニスルナリ
○折目ノイカニモナシヤカニ先ニユラリト折タルヤフナリ利口ニ
見サル也
△折目トハアトノ爪ノ折レノ事ト也大鞆ハ本厚ニ折故ニ利口折
レテハヨハキユハナリ
○生付前後モミナメカタニ輪ハ二取付者也
△トコトモナリナタ豆ノ鞆ノヤフニ有之モノナリ

○居本同一寸七寸餘ノ鞆ヨリモ間狭ク見ユル也

△一寸七寸ハセハキナリ見付カセハキ様ニ見ユルト云フナリ

○ナニノ穴切付シ付ル緒通レノ穴ノ一ノ穴ハノ間ヲウツクシク

田クハ入ルナリ餘ノ鞆ハ穴ニウ間ヲ留サセニ只片切込ナリ



△居本ノ緒通レノ穴ノコトナリナニノ穴ト云ナリイヒワ祓ノ申齋

ク因マハセハキモノナリ切付緒通レ結メノ繩高ク成ユヘイヒ

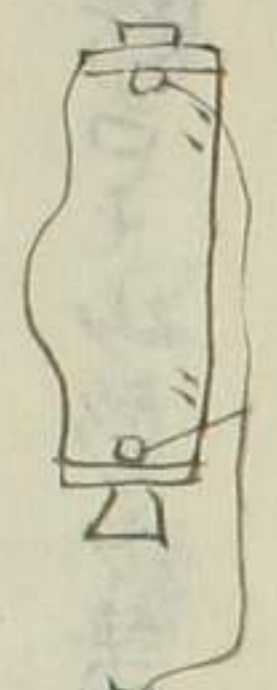
ツノ穴ハ深キナリ是作ノ見所也

○儀通ノ穴田クウツクレクスルナリ

△鞆シハル穴ナリ 居本穴ハナメメニ取シ

○居本先ウツクシク踏張強ニ見ユル

△踏張強ト云ハ前後ノ鞆ニ付処ムツクリト肉持タルヲ云



△如ツ踏張ト云

○生付ノ幅ト鞆ノ縁ノ厚サト同前ニ見ユルナリ口傳

鞆ノフ子ノ厚サ如也

△如モ生付トモ是ニテモ由ス多ク也

生付生付ノ平ニテモ也



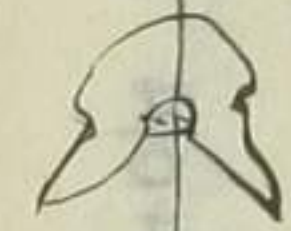
○山形イカニモウツクシク角モナクハタスハリモセス見ユルナリ




其所ヲ云フ

○手取常ノ鞆ヨリ丸ク内ノ方ニ深ク取入タルヤフナリ下ノ方ハ少
 シナリ△手取内ノ方深クトルハ指カレルタメニ升ノ深キハ悪敷
 ○鯨口ヨリ山形ニテ間ムツタリト見ル也
 ○鯨口モ山形ヲ請テウツクレク見ヘテ角ナレ中ニ肉置アリ
 其両條ノ内ニテ條目可然歟其表ニハ腕セリ
 △鯨口ノ一ノカウニアフヤフニ

鯨口ノ山形ニテ



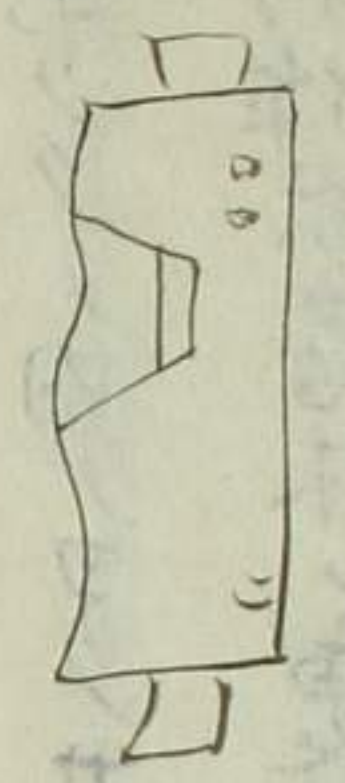
肉置ト云ハ其表ニ

○爪ノ裏ニ肉アリ定ホシ後ニ見生共肉ノ真中ニアタル又兼人
 村ニ傳 △是ハ後爪ノトニ前爪ノ肉置ハ多ク有ル所爪ハ取
 多シテ爪裏子ニレ高ヒク有リ
 ○切目ノ穴ニ傳 △其兼人村ト切目ノ穴ノ傳ノユルヨシ切目
 穴ハホツクメ内ノヨリサラヘタルヲコレトス
 ○駿河作ニハ唇不ノ裏切目ノ穴切込ニハ角ナレニ切込由口傳
 △切目ノ穴  角ナレ角ヲ取シ
 ○生付ノ片輪ハ取ツクニ厚ク取次ナリ常ノハ浅シ前後同断
 ナリ △書ノ通

○手形ノ中ノ角低レ上下ノ角ニ曲スラ後シテオツ見ルニ一分半ホトモ
アリ常ノハニニ分或四分モアリ

△駿河ハ一分半有
如共四尺シテナル

葺木
如共四尺シテ後シ見ルニ中ノフクウニ一分ホト



透アリ
△判所ノ透ノコト

○同居ホノ裏ニ横ニ曲スラ後シテ一分透アリ
△居ホノ裏ニキリ

フシ

○カ草通シ裏判形ノ所年号ノ所凹ト其印ヲ摺セレカタメナリ
書通

辰光私覚

○大因幡ト云者作ニ代目也上キ也辰光見覚タル曲尺ヲ記ス也

大因幡作前輪

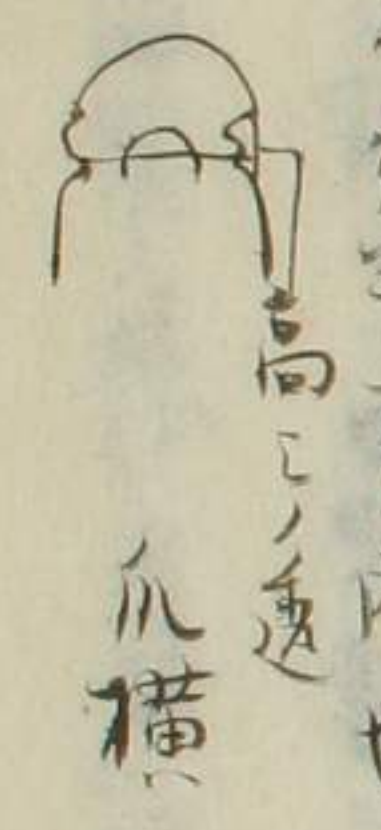
○爪ノ長チ寸六分爪崎メシツトル也

△面取切付シ鞆ニセテレキタメナリ

○馬狹シメシノ升ハ一尺七寸メシノ内ハ一尺五分
△前ニモ解リ

○手取ノ高シノ透ハ半ヨリ内也

○爪ノ横曲尺ハ半ヨリ内也



爪横

○前後ノ爪同四寸五分半但し一方ハ四寸四分口傳

△四寸四分口傳トハ口決傳ノ通シ鞞ニヒスミソトクタル曲尺シ

○手形イカモ回シユツタリトシタル者也 △書ノ通

後輪

○爪長八寸三分之二ノ内ハ四分メニ一ヲ取シ 書ノ通

○切俎ノ透回分 △是ハトハリタル鞞ニテハ曲尺アレカクシ

○爪横曲尺透ナシ

○鞞蓋ハ鞞ノ内ヨリ曲尺シテカ高カ八寸八分前後同断也

△八寸八分前後同断ト有レ是ハ誤シ前後ニテ寸尺ナカヒアリ

△居木ノ際サ一寸七分半付ハ曲尺シテ居木ノ上方ヨリ其外居

木ノ厚子三寸也

△居木ノ深サハ中ニ曲尺アリナリ三分ハ居木ノ厚サナリ是モ中ニ

テ曲尺ツクルナリ

○生付ニ曲尺シテ後シテ一文字也 當テ四分ナリ 書ノ通

○居木ノ裏ニ録^{ナヤウ}ノ目アリ △居木裏ハトカクニ口ノニハ毎キモノ

ナリ上チノチタルハ皆サクリ録ノ目有モノナリ下チノチタルハ

又ツヘリトキレノニ見ユルナリ

○乗方ノ前後ノ輪ニ負 誠判在ニ照心作ナリト書付タル

アリ或居木乗方ノ判兵ニ負倍左ニ大因幡作也ト書
タルモ又有之也  印如女アリ

○九代目駿河作之鞍公方様御物ニ有之曲尺トエ方掃部及兵
持之鞍女宛ノ相違アリ然レ其格ニ様ノ瓜ニ見ル者也

○公方様御物駿河作

○乘間一尺一寸三分也 Δ 是曲尺ノヒタルナリ本曲尺ハ二尺也ノ

ツシミテ如女方タルト見エタリ

○前輪ノ馬杖一尺四分也 Δ 是モ本曲尺ハ一尺ノモノナリ乘間ノヒ

タルユニ是モ又四分ノヒ有ルナリ

○後輪ノ馬杖一尺二寸五分也 Δ 本曲尺ハ一尺二寸ノモノナリ是又

五分ノヒナリ

○生付三分半也 契通

○前後瓜間四寸四分也 Δ 曲尺前ノ通



左ニ甚込厚 花ニウキ葉ニ本

至西七月日トアリ

エ方掃部及兵持駿河作

前輪

○瓜六寸八分ノ内也

○馬杖一尺五分也

○爪ノ横田尺透半分也 △是ハ爪ノ内ノ方半也
○手形ノ透一分弱也

○切組ノ内左ニ尺厚葉一ノ右ニ判判ノ下ニ ⊕ 如珠ノ物アルナリ

△皆辰光物見印ハウレシニテハ毎レ燒金也

後輪

○爪八寸七寸也 ○馬扶一尺三寸二分也

○爪横田尺透二分半也

○切組上角ノ横田尺透三分也

○同組ノ内左ニ判右ニ尺厚判ノ下ニ ⊕ 如珠ノ物アルナリ

△後輪ニハ印ノ横出ルル前輪ノ印ハ不出ル前輪ニ右ニ判有左ニ尺厚有後輪ニ右ニ尺厚左ニ判有

○鯨口ノ内ニ肉置アリ △鯨口ノ内ノ平ノ肉置ノナリ

○四ノ爪崎ノ裏ニ肉置アリ △カケサル様ニ肉置有下テノチタ

ルハ肉置ハアレトモカケルナリ

○切目ノ穴ニ長キ鑿目アリ

△鑿目シ付レハハリタル時糸ノウロカサルタメナリ上チハ

加共細ニ心ヲ付ル也

○切組ノ上角ニ四角成鑿目アリ前ハ兩ノ爪後ハ一方也

△前輪ニハ両方ニ後輪ニハ一方ニ有

居木

○生付ノ太サ三分也

△右子サ三分ナリ

○石ニ判取 照ニ壬申二月日ト書タル也 △右ノ居木ニ判形有

○左ニ蓋匠写花ニウ葉ニ本兩方ノ居木ニ⊕如城ノ物アリ

△左ノ居木ニ匠写花ニウ葉ニ本アリ兩方ノ居木ニ十字ノ印有

○駿河守ハ九代之作也トイフニト稱スル也口傳如作判取右ニ

必ス雕タル也自然ニハ彫カルモ有之事也 △自然ニハウルシニテ

印タルモアリ先ツハウルシハレナリ印彫トハアレヒ夫ニテハ此モノニテ

ルユハウルシニテ記スフ宜ト云説モアリ是等傳タルハ

○駿河ハ切組ノ内輪ニ△如城成物一宛アルレシト目前後輪

切組ノ内上ノ方ニアリ

△印ハ切組ノ内上ノ方ニアルナリ

○尾桐出雲守所持駿河作鑑之寸法

○古崎三寸四分也

○屈ニ五寸六分也

○盆盤四寸一分也三寸九分半 共通

○横山半左門所持貞誠カ鞍ニ右居木ニ  如城ノ判アリ

左ニ文明十八年 月日ト朱ヲ以テ記シタル也但レ貞誠ハ五代目也

駿河守ヨリ前代ナリ

△女通

○言未善次郎所持負素カ鞆ハ代ニ百五拾貫也其鞆ノ居

ホニ



女判アリ年号ハ明徳ト記ス也 書ノ通

○伊勢上野カ印ニ右ニ判左ニ己酉六十四年ト書タルアリ

○辰光曰古キ鞆ハ前後ノ爪周ヲ摺レ爪ノ長モ減テ少レハ寸

法ニ相違スルナリアリ馬持ハ勿論在クナリ生付ノ心モ違フ者

也是故ニ時代ノ本目又作者ノ手風ヲ見知ルヲ專也此代

伊勢カ末流ニテ鞆ノ作ヲ極代付ヲ出ストク凡證トスハ

カラスラ善カラヌ又鞆ノ極タル多シ當家ニ如クノ傳在テ

其品ヲ摺也直チモ大坪ノ門ヨリ出タリ常ニ女モ好まニ村ノ

取次上下ノ曲尺ヲ傳授シタル者也肝要トスル所ハ曲尺能ク

け在テ五ツノ曲尺揃フ鞆ハ宜シキト知ルヘシ鐘モ中曲尺正シク

一命金強押双金止シキハ善キ鐘ト知ルヘシ條ノ口傳

△古キ鞆減ルモノ故ニ寸法ノ曲尺モ違フ有モノナリ唯其作者

ノ手取ト本け有テ曲リノヨキヲ見知ルヲヨシ本けカワキ

タルハ指スルヲ有ルモノナリ不違ハナシ見ヨシ本カハキレヤレタル

ヨフニ見ユモノナリ 五ツノ曲尺ト云ハ常取口後ノ上ノ曲尺下ノ曲

尺卧程ノ曲尺一ツレノ曲尺是ハ前輪ノ臥程曲尺ナルレ又馬扶

ノ由尺前後是五ツテリ

右上下之尖者伊勢因幡入道常安秘書也于時常安未
有藤好玄之宅語作代々之守風多別其作ノ善惡守誤
誅而好玄ノ為弟子則傳上下及村之秘事者也從夫以
来當流用其書也

△鏝 古作ノ一

○カクホノ輪唐 ○示鏝 金ノ輪唐

○半古 倭 鉄 古延 ○古長同新

○武藏鏝 倭 古作 ○五六ハ中古ナリ

△又乘人村ニ口傳 切目ノ穴ニ口傳

△切目ノ穴ハ燒金ニテメシク取穴ノ中ニ肉置有リ乘人村ハ
居木ノ後ノフチニ則ヨリカスシ居木ノ前乘人ノ股ノ當ル所
ナリ形ハ肉ヲ取テリ人ノ股首ヲ臥又々メナリ



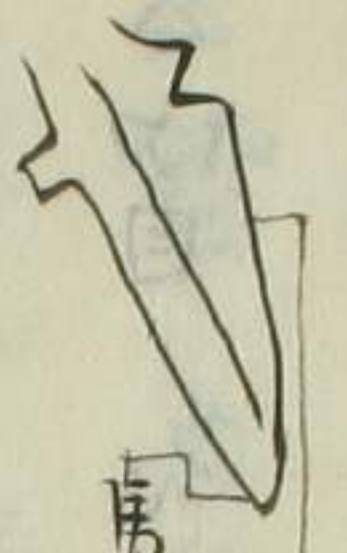
乗人村ハ手取上ノウカシ置シ

△爪裏居木裏ノカクリハ其人ノ手風ニテ横ニモサクリ堅ニモ
直邊ニモサクル申定易云リ

△前後輪ハ控居木ハ子フタリ用ルシ水気有テ強又輪ニ櫻
モ用由

△伊勢因幡守貞誠或七郎次郎又ハ左京亮元号年号ハ
朱ニテ文明何年ト記スナリ

轉ノ手風物躰山形ナト厚子ノ袖木切廻ノ所ツマリ各様ニ
見ヘテユフアリ



此所強ククラヌナニトリト見ユル
馬ハタ此所ナニテアタリ有馬扶ノ握裏ニテモ見ヘシ



此爪先モ伊勢形ト拾別シ

袖木惣躰子厚ナリ



此所ノ幅
厚ナリ

境口モ少深シ

此所内シ三角ニケスル

此処ノ縁上ノ方ムウシリト丸メニ見ユナリ

△如女隠シ印アルモ有

○貞誠男子沼田上野ハ先延嫡子上野ハ先兼又子具助解

由左工門信延ト云

○朝令右石京之進政元 嫡子助解由左工門之能ト云

○辻尾近政定

○天方山城守道綱

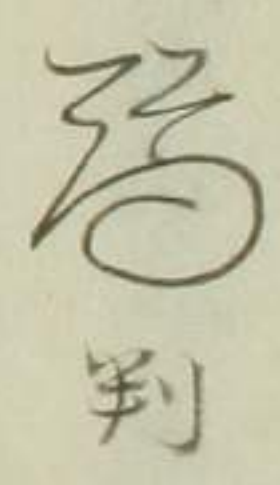
○富山中務 嫡子天和五郎入道ノ宗幻

○中務入道一葉斎



如契印有

貞誠子
宮備中守 永正年中



判

○平尾 周 紀列八田島在門又見右内庄島解由左内另

子也

東城ト云ニモニ様有

紀列東城 幡摩東條ノ違有由

伊勢上野人貞弘 同伊勢守貞宗

右父子兩作 備口彈正家ニ有

